

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19330074
 研究課題名 (和文) インドにおける消費パターンの変動と経済成長、1950-80 年：中下層階層を中心に
 研究課題名 (英文) Economic Growth and Changes in Consumption Patterns in India: With Special Reference to Lower and Lower-Middle Classes
 研究代表者
 柳澤 悠 (YANAGISAWA HARUKA)
 千葉大学・法経学部・教授
 研究者番号：20046121

研究成果の概要 (和文)：本研究は、耐久消費財の浸透など消費パターンの変化が、インド農村の下層階層においても生じていること、変化は単なる物的な消費財の面に限らず、教育、宗教活動などに広がっていること、消費の変化は階層関係など社会関係の変容や下層階層の自立化によって促進されていること、またその変動は 1950-60 年代から徐々に生じていると推定されること、農村消費の変化が産業へ影響を及ぼしていることなどを、明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：Main findings are: (1) The last decades witnessed remarkable changes in consumption behaviors even of lower strata of the rural population as shown by the penetration of consumer durables among them. (2) These people have started not only buying and using these goods but also expanding their educational, religious and other activities. (3) The changes have been stimulated by a transformation in the village social structure, especially by the empowerment of the subaltern groups among the villagers. (4) People are likely to have started using new commodities as early as in the 1950s and 1960s. (5) The changes in consumption patterns have stimulated the growth of some industries.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2008 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	6,000,000	1,800,000	7,800,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史、インド、消費、経済成長、生活スタイル、教育、非農業雇用、都市化

1. 研究開始当初の背景

(1)近年のインドの急速な経済成長に刺激されて、1980 年以降の消費の文化人類学的

分析は発表されているが、1980 年以前の時期の消費変動について 80 年以降の経済変動との関連を視角にいった経済学的研究はほ

とんどなかった。

(2)インド経済の高度成長は都市中間層の拡大による耐久消費財需要の拡大によって牽引されたという通説的見解に対して、農村部の上層階層以外の農村消費がより重要であると我々は推定したが、十分な実証的研究はされていなかった。

2. 研究の目的

1950年代以降における、インドの人々、特に農村中・下層階層の消費パターンの変化を、耐久・非耐久消費財、教育、宗教活動、家屋改築、旅行など日常的・非日常的な諸側面について、分析することによって、1980年以降のインド経済の持続的高成長を支えた国内市場の条件に関する通説的理解を批判して、その成長がインド農村社会経済構造の長期の変容に基づくものであることを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

(1)南インド・タミルナードゥ州タンジャーヴール県・ティルチラーパッリ県およびセラム県の村落にて、世帯ごとに職業と消費に関するデータを収集する等のフィールドワークを行い、社会的経済的階層ごとの消費パターンの変化を検出する。

(2)1950年以降の南インドの現地語の新聞・雑誌の広告欄を収集し、広告の内容の変化から、消費や販売戦略の変動を分析する。

(3) National Council of Applied Economic Research による世帯の耐久消費財所持調査など関連統計を収集して、分析する。

(4)著名寺院などで聴取り調査をおこない、巡礼への参加の増大に対応した、宗教施設側の対応を調査する。

4. 研究成果

(1)以下の調査・研究を行った。

①ティルチラーパッリ県村落で、全世帯に関して所持耐久消費財データや消費に関する聴取り調査を行い、世帯データの電算機への入力と分析を行った。また、タンジャーヴール県の村落における1950年代以降の消費動向の経年変化に関する聴取り調査や、セラム農村地域でデータを収集した。

②インド・チェンナイ Roja Muthiah Research Library にて収集した、タミル語雑誌 “Kumutam” “Ananta vikatam” (1950-70年代)掲載広告を分析をした。

③インドの National Council of Applied Economic Research 等にて統計資料の収集を行い、その分析を行った。

④インド・チェンナイで、共同研究者と討論を行い、さらに、インド・チェンナイの研究所より研究者を招へいし、これらの分析結果と成果を検討するワークショップを東京

で開催した。

(2)これらの調査・分析を通じて、次のような知見を得た。

①1980年の前回調査と比して、2007-8年時点には、村落内のすべての階層やコミュニティにおいて非農業就業が最も重要な収入源となるなど、職業上の変化は顕著である。ただし指定カーストの場合、就業者数の過半は農業賃労働者であることには、留意が必要である。

②電力、水道、家屋の改築などの面で28年前とは格段の改善がみられた。指定カースト成員を含め耐久消費財の浸透は顕著である。扇風機やガス調理セット、テレビ、携帯電話などの普及率は高く、バイクも2-3割の世帯が所有している。ただ、普及率にはコミュニティによる差異が存在する。

③下層階層の一部も都市の私立小学校に子供を通学させたり、村内の結婚式場で結婚式を行い始めるなど、教育面や生活スタイルの面でも顕著な変化が生じつつある。

④2000年以降は、指定カースト成員が、ほかのカースト成員とともに、巡礼旅行に行きはじめるなど、宗教活動上の変化が生じた。

⑤都市近郊の農村地域の一部は都市通勤民の居住地域化するなど農村社会の非農業化が生じている。

⑥南インド村落の下層階層においては、70年代に歯磨きの使用など日用品消費の変化が生じはじめ、80年代以降に自転車やラジオなどの低価格耐久消費財の浸透が始まった。調査村では、ほとんどの下層階層の家屋が、藁葺家屋泥壁からレンガ家屋に建替えられた。広告の分析から、こうした消費生活の変化は1950年代から70年代にかけて始まっていることが推定される。

⑦また、巡礼参加者の拡大にともない、聖地が拡大・発展し「奇蹟の商品化」が進んだ。

⑧村民結婚式時に絹サリーの着用が普及し、カーンチープラムのサリーが「正統」絹サリーとしての地位を確立していくなど、消費の変化は産業のあり方にも影響を及ぼしている。

⑨以上のように、消費パターンの変化が農村下層階層においても生じていること、その範囲は単なる物的な消費財の面に限らず、教育、宗教活動など多面に広がっていること、消費パターンの変化は階層関係など社会関係の変動特に下層階層の自立化と関連していること、こうした消費の変動は1950年代以降徐々に生じていると推定されること、農村消費パターンの変化が産業への影響を及ぼしていることなどは、本研究が初めて本格

的に実証的に指摘した事実である。ただ、実証の面ではより一層の深化が望まれることも付言しておきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

- ① Haruka Yanagisawa, “Towards a New Historiography: Japanese Studies on the Economic History of Modern India”, 『歴史と経済』202号、2009年、36-45頁[査読有]
- ② 杉本星子「エコツーリズムの聖地マダガスカルの野蚕布生産—森林資源の持続可能な開発にむけた考察」『京都文教大学人間学部研究報告』第10集、2009年、37-52頁[査読有]
- ③ 杉本星子「鶴見和子と製糸・紡績で働いた『三代の女』たち」西川祐子・杉本星子編『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ—鶴見和子文庫との対話・未来への通信』日本図書センター、2009年、68-102頁[査読有]
- ④ 井上貴子「インドにおけるNGOの現状と課題」『アジア学論集』大東文化大学、第9号、2009年、45-58頁[査読なし]
- ⑤ Haruka Yanagisawa, “The Decline of Village Common Lands and Changes in Village Society: South India, c.1850-2000”, *Conservation and Society*, Vol. 6, No. 4, 2008, pp. 293-307 [査読有] <http://www.conservationandsociety.org/backissues.asp>
- ⑥ 柳澤 悠「現代インドの経済成長と農村社会の変容」『経済研究』(千葉大学)3巻3号、2008年、283-314頁[査読なし]
- ⑦ Yoshio Sugimoto, “‘Boys Be Ambitious’: Popular Theatre, Popular Cinema and Tamil Nationalism”, in Terada, Yoshitaka (ed.), *Music and Society in South Asia: Perspectives from Japan* (Senri Ethnological Studies 71), National Museum of Ethnology, 2008, pp. 229-240. [査読有]
- ⑧ 杉本良男「アーディ・ドラヴィダー実体化された不可触民カースト」トダー外部からの視線(金基淑編)『講座世界の先住民—ファースト・ピープルズの現在 03 南アジア』pp.143-155,156-168, 明石書店、2008年[査読なし]
- ⑨ 井上貴子「日本の伝統芸能におけるインドの影響」前田専學編『インドからの道、日本からの道』出帆新社、163-186頁、2008年[査読なし]
- ⑩ Inoue, Takako “The Indian Impacts on

Japanese Traditional Performing Arts,” in Sengaku Mayeda ed., *Path from India, Path from Japan: Lecture Series on Japan-India Relations*, New Delhi: Northern Book Centre, 2008, pp.141-160. [査読なし]

- ⑪ 井上貴子「バーガヴァタ・メーラとナラシンハ信仰—タンジャーヴールのテルグ語芸能の伝承と現在—」鈴木正崇編『神話と芸能のインド—神々を演じる人々—』山川出版社、233-253頁、2008年[査読なし]
- ⑫ 栗屋利江「『ケーララ・モデル』とジェンダーの平等をめぐるアマルティア・セン(栗屋利江・佐藤宏訳)『議論好きなインド人』2008年、613-624頁[査読なし]
- ⑬ 柳澤 悠・栗田禎子・寺尾忠能「国際シンポジウム『アジア・中東における「伝統」・環境・公共性』」『アジア経済』Vol. 48, No. 8、2007年、66-77頁[査読有]
- ⑭ 柳澤 悠「第6章4 生活の変化」「第6章5 植民地下の産業発展」『世界歴史大系・南アジア史3 南インド』山川出版社、2007年、259—273頁[査読なし]
- ⑮ 柳澤 悠「南インドにおける村落共同利用地の歴史的変動：1850年以降のタミルナドゥの乾燥地帯の場合」『公共研究』(千葉大学)、4巻3号、2007年、32-37頁[査読有]
- ⑯ 杉本良男「天竺聖トマス靈験記」『国立民族学博物館研究報告』31-3, 305-417頁、2007年[査読有]
- ⑰ 井上貴子「補説 8 カルナータカ音楽理論の完成」辛島昇編『南アジア史3 南インド』山川出版社、193-195頁、2007年[査読なし]
- ⑱ 井上貴子「第七章近代への対応 2 デーヴァダーシー問題と古典芸能の再生」辛島昇編『南アジア史3 南インド』山川出版社、2007年、289-291頁[査読なし]
- ⑲ 井上貴子「インド音楽芸能史の困難」『歴史と地理 世界史の研究 213』、No.609、山川出版社、60-64頁、2007年[査読なし]
- ⑳ 栗屋利江「『サバルタン・スタディーズ』と南アジア社会史研究」『メトロポリタン史学』第3号、51-77頁、2007年[査読なし]
- ㉑ 杉本星子「インド・サリーの伝統と現代」『日本衣服学会誌』51巻1号、7—10頁、2007年[査読なし]

[学会発表] (計 14 件)

- ① Haruka Yanagisawa, “Changes in Socio-

Economic Structure and Consumption Patterns in an Irrigated Village in Tiruchirapalli District, Tamilnadu”, presented at Workshop “Environment, Agriculture and Socio-economic Change in India” (2010年3月29日慶北大学、韓国)

- ② Haruka Yanagisawa, “South Indian Village Common Lands in Transition: The Decline of the Elite-dominant Managing System and Changes in the Role of Common Lands in Local Agricultural Production and in the Village Economy”, presented at “Contemporary India Area Studies: The First International Workshop” (2009年12月13日京都大学)
- ③ 柳澤 悠「ティルチラーパッリ県水田地帯農村の社会経済変動と消費の変化」日本南アジア学会第22回大会(2009年10月4日北九州市立大学)
- ④ 杉本星子「南インドの独立後のサリー・ファッションの展開と『サウス・シルク』」日本南アジア学会第22回大会(2009年10月4日北九州市立大学)
- ⑤ 井上貴子「タミル語雑誌広告にみる企業の広告戦略と消費動向」日本南アジア学会第22回大会(2009年10月4日北九州市立大学)
- ⑥ 粟屋利江「英領期インドのメディア広告分析—20世紀前半における消費への『誘い』—」日本南アジア学会第22回大会(2009年10月4日北九州市立大学)
- ⑦ Haruka Yanagisawa, “Village Common Land, Manure, Fodder and the Intensification of Agricultural Practices: South Indian Agriculture since the Middle of the Nineteenth Century” presented at Jawaharlal Nehru University, New Delhi (2009年9月5日)
- ⑧ Haruka Yanagisawa, “Village Common Land, Manure, Fodder and the Intensification of Agricultural Practices: South Indian Agriculture since the Middle of the Nineteenth Century”, XVth World Economic History Congress (2009年8月6日 University of Utrecht)
- ⑨ Haruka Yanagisawa, “Historical Changes in Village Common Lands in South India: Unirrigated Areas of Tamilnadu since the 1850s”, presented at “Indian Society and in 21st Century” (2009年3月20-21日慶北大学、韓国)。
- ⑩ 粟屋利江「『植民地近代性』を考えるととは？」日本南アジア学会設立20周年記念連続シンポジウム第6回(2008年6月23日東京大学)
- ⑪ Haruka Yanagisawa, “Some Key Aspects in Understanding Historical Changes in South Indian Village Society: Landholding and

Non-farm Job Opportunities” presented at “Studying Village Economies in India: A Colloquium on Methodology”(2008年12月21-24日 Charsa, India)

- ⑫ 井上 貴子「インドにおけるNGOの現状と課題」政治経済学・経済史学会(2007年10月27日静岡大学)
- ⑬ 杉本星子「インドの結婚と花嫁の豪華な持参財」日本文化人類学会一般公開シンポジウム「ものから見る人間の社会と文化—贈り物の人類学」(2007年9月29日神戸国際会館)
- ⑭ 井上貴子「ポピュラー音楽にみるNRI(在外インド人)のジレンマ」東洋音楽学会東日本支部第33回定例研究会(2007年7月7日成城大学)

[図書] (計6件)

- ① 柳澤 悠編『消費パターンの長期変動と社会構造・社会意識—南インドの事例を中心に』千葉大学、114頁、2010年。
- ② D. Haynes, A.S. WcGowan, T. Roy and Haruka Yanagisawa eds., *Towards a History of Consumption in South Asia*, Oxford University Press, Delhi, Delhi, 2010, pp. 297.
- ③ 杉本星子『サリー！サリー！サリー！—インド・ファッションをフィールドワーク』京都文教大学ブックレットNo.2、風響社、2009年、1-76頁。
- ④ 井上貴子『ビートルズと旅するインド、芸能と神秘の世界』柘植書房新社、260頁、2007年。
- ⑤ 広瀬崇子、近藤正規、井上恭子、南埜猛、井上貴子他『現代インドを知るための60章』明石書店93-8頁、208-212頁、2007年。
- ⑥ Noboru Karashima, Haruka Yanagisawa et al., *Contribution of Tamil Culture to the Twenty First Century*, International Association of Tamil Research, pp. 231-245, 2007.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柳澤 悠 (YANAGISAWA HARUKA)
千葉大学・法経学部・教授
研究者番号：20046121

(2) 研究分担者

井上 貴子 (INOUE TAKAKO)
大東文化大学・国際関係学部・教授
研究者番号：10307142
(H.19→H20 連携研究者)
杉本 良男 (SUGIMOTO YOSHIO)
国立民族学博物館・教授
研究者番号：60148294
(H.19→H20 連携研究者)

杉本 星子 (SUGIMOTO SEIKO)

京都文教大学・人間学部・教授

研究者番号：70298743

(H.19→H20 連携研究者)

栗屋 利江 (AWAYA TOSHIE)

東京外国語大学・総合国際学研究院・教授

研究者番号：00201905

(H.19→H20 連携研究者)

(3) 連携研究者

()

研究者番号：